



ほんせい秀雄県議会レポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

外環道松戸～市川間、半世紀ぶりに開通

2月定例県議会一般質問



2月定例県議会で一般質問を行う本清秀雄県議

整備効果、首都圏に波及

今季限りで勇退を決めている本清秀雄県議（松戸市選出、8期）は2月定例県議会で最後の一般質問に立ち、道路問題や教育問題、河川治水について県執行部に質問しました。半世紀ぶりの外環道松戸～市川間開通では、思い出を交えながら、開通による整備効果を森田知事に聞きました。また、松戸市内を流れる河川の治水対策を聞くとともに、河川の利活用について担当者の考えを尋ねました。本清県議の質問と答弁を紹介します。

本清議員 昭和40年代後半、首都圏では至るところで交通渋滞が発生し、大気汚染も深刻になっていた。外環道は住宅密集地を通るので生活環境の悪化を心配する住民の反対運動が大きくなった。そして、住民から提出された外環道の建設に反対する請願を周辺自治体の議会が採択したことから、松戸市・市川市に加え、本県までもが請願を採択してしまっ

た。その後、県会議員になってからも、地域の理解を得るために国や県が行う説明会や広報活動などの取り組みに、出来る限りの協力を続けてきた。そのかいあつて、約半世紀もの時間をかけ、やっと外環道松戸～市川間が開通した。今年の正月には、当時の建設省の担当だった方から年賀状をいただいたが、そこには外環道開通へのお礼の言葉が添えられていた。今、千葉市内の方から、松戸が近くなったという話をよく耳にする。地元からも、松戸や市川の幹線道路で渋滞が緩和されたなど、開通を喜ぶ多くの声を聞く。そこでうかがうが、外環道の開通により、どのような整備効果が表れているのか。

知事 外環道は、首都圏

の高速道路ネットワークの一翼を担う道路であり、昨年6月2日に三郷南インターチェンジから高谷ジャンクションまでの区間が開通しました。この開通により、本県から都心を経由せずに首都圏各地にアクセスが可能となり、所要時間が短縮し、地域の利便性の向上や、物流の生産性向上が図られるとともに、

幹線道路網を整備し個性光る地域づくり

本清議員 広域的な幹線道路網の整備を踏まえ、今後の県の地域づくりをどのように進めていくのか。

知事 本県が、今後の人口減少にあっても、将来にわたって持続的に発展していくためには、広域的な幹線道路網の整備を生かし、人やモノの流れを活性化することで、県内各地域の経済・社会の発展につなげていくことが重要です。

このため、県では、人の交流拡大に向けて、国内外へ県内各地の魅力発信を行い、観光の振興や移住・定住の促進などを進めるとともに、モノの流れの活性化に向けて、圏央道沿線等への企業立地の促進や県産農林

に、都心の交通が外環道に転換し、都心の渋滞が改善するなど、整備効果は本県のみならず首都圏に広く及んでおります。

また、国道298号の開通により、周辺道路から国道298号に交通が転換し、特に並行する県道市川松戸線では、通過時間が最大で約4割短縮し、走行環境の改善が図られるなど、整備効果が着実に表れております。

今後とも、外環道の整備効果を、広域に波及させるため、北千葉道路などの幹線道路ネットワークの整備に努めてまいります。

水産物の流通・販売の促進などを進めてきたところで、今後はさらに、県内各地域へのアクセス道路等の整備や地域資源を活用した産業振興などを進め、幹線道路の整備効果を県内全域へ波及させるとともに、個性が光る地域づくりを進めてまいります。

本清秀雄県議プロフィール

経歴

昭和11年3月 長生郡長南町生まれ
39年5月 本清鋼材(株)設立
53年11月 松戸市議会議員初当選(2期連続当選)
62年4月 千葉県議会議員初当選(8期連続当選)
平成17年6月 県議会第59代議長に就任
19年5月 自民党千葉県連幹事長に就任
21年6月 同顧問に就任

- 千葉県議会地震・津波対策議員連盟会長
- 千葉県議会資源エネルギー会長
- 千葉県カヌー協会会長
- 千葉県老人クラブ連合会顧問
- 松戸市少年サッカー4種委員会顧問
- 松戸少年野球連盟顧問
- 万作踊り保存会会長
- 前千葉県空手道連盟会長
- 元千葉県幼児教育研究議員連盟会長
- 元千葉県議会拉致議員連盟会長

●県政や松戸市のご相談をお寄せください……

ほんせい秀雄事務所

〒271-0064 松戸市上本郷4563 TEL.047(361)5656 FAX.047(361)6060

議員の行政調査成果活用を

要望 本清議員 一
昨年8月に「千葉県議会インドネシア・フィリピン行政調査団」の団長として、5日間をかけて、外国人観光客の誘客、県産品の輸出促進、海外進出日系企業の現状と課題などを調査してきた。

フィリピンでは労働雇用省の大臣と面会し、多くの看護師、介護福祉士がいるものの、国内に需要があまりないことから、人材をもっと日本に送りたいとの意見をうかがった。

こうした調査の結果を報告書にまとめ、県議会において報告もした。ところが、知事は昨年、トップセールスでシンガポール、ベトナムを訪れており、我々が行った調査の成果は取り入れていただ

いていないように感じている。

ぜひ、知事におかれては、議員の行政調査による成果を、トップセールスやその後のフォローアップなどに役立てていただきたい。

第3期県教育振興基本計画策定へ

千葉の子どもたち育成



県会議員として最後の質問を行う本清議員

本清議員 「ちば中学生県議会」は現在、毎年6月の開会日に行われているが、かつては地方自治法施行30周年、40周年、50周年の節目の年にのみ、記念事業として実施していた。

私が議長を務めていた平成17年に全国議長会で「千葉県は投票率がよくない」と言われたもので、当時の衆議院議員選挙でも千葉県は全国ワースト5だった。

そこで、私は、今から中学生に働き掛けておけば、何年後かに県民がもっと関心を持つてくれるのではないかと、この「ちば中学生県議会」を開催することにした。

県議会議員選挙がある今年には開催されないと思うが、来年度以降も引き続き実施していただけることを切に願っている。

子どもたちにいろいろな経験をさせることは、その後の人生において、大きな力となっていくものと思う。平成もまもなく終わろうとしているが、急速な国際化や情報化など、今後時代は大きく変化していく。このような状況の中でも、千葉の未来を担う子どもたちが、豊かな人生を生き抜くために必要な力を身に付

けることが大切だと考える。そこで、うかがうが、千葉県の未来を担う子どもたちの育成にどのように取り組んでいくのか。

教育長 本県では、知事と教育委員会が構成する総合教育会議での議論を踏まえ、平成27年に「千葉県の教育の振興に関する大綱」を策定いたしました。その中で、千葉の未来を担う子供たちに、「強く、美しく、元気な心」を育むとして、「志を高くし、自信と希望をもって努力を続けよう」などのメッセージを発信しております。

また、第2期千葉県教育振興基本計画においては、「夢・チャレンジ」「元気」「チームスピリット」の3つのプロジェクトに17の重要施策を取りまとめ、元気な子どもたちの育成などに取り組んでおります。

現在、平成32年度からの第3期基本計画の策定に向け、有識者の意見をうかがいながら検討を進めているところであり、引き続き、千葉の子どもたちが「豊かな人間性」「確かな学力」「健康と体力」を備え、郷土を愛し、広くグローバル化に対応できるよう、オール千葉で子どもたちの育成に取り組んでまいります。

松戸市内の河川治水 堆積土撤去や 排水機場整備

本清議員 松戸市の河川に関する出来事で、まず思い返すのは、「国分川分水路」。国分川上流域の洪水を坂川を経由して江戸川へ流す施設だが、昭和48年から21年もの長い年月を費やし、平成6年にやっと完成した。

その陰で、工事中の平成3年9月19日、台風がもたらした洪水により、7人の工事関係者の尊い命が失われた。私は、毎年の命日にご遺

族の方々や現地の慰霊碑に手を合わせ、ご冥福を祈るとともに、大きな犠牲の上に今の安全・安心な生活があることを毎回、思い返しています。

もう一つ、思い返すのは、かつて悪臭漂うどぶ川だった「坂川」だが、下水道の整備や浄化用水の導入などの連携で、水質が大幅に改善した。

このように、松戸の河川は昔と比べてずいぶんよくなったが、今でも、河川の

機能維持や利活用について、気がかりな点がある。そこでもうかがうが、松戸市域において治水機能を発揮するための対策はどうか。

県土整備部長 平成31年度は松戸市域においては、坂川で堆積土砂の撤去を予定しています。

また、排水機場等については、予防保全型の維持管理を取り入れた長寿命化計画に基づき、長期にわたる機能維持に努めています。平成31年度は松戸市域においては、柳原排水機場ではポンプ駆動装置、樋野口排水機場では電源設備の整備などを予定しています。

また、9月の議会でも要望したが、江戸川では堆積した土砂がカヌー等の水面利用に支障をきたしており、浚渫が望まれている。江戸川で活動する皆さんの声をぜひ聴き届けてほしい。

河川活きた街のつくりかた

本清議員 河川の利活用を踏まえた取り組みはど

うか。

県土整備部長 松戸市では、坂川や新坂川において、河川を利用した街づくりを行っているところです。

坂川では、河川再生のため、水際の自然再生や親水護岸の整備、散策路を兼ねた通路の拡幅などを行っています。平成31年度は、小山樋門橋付近の通路を完成させる予定であり、川沿いを眺め回遊しながら、快適な散策をすることが可能となります。

また、新坂川では、河川区域内で民間事業者が営業活動を行える、県内初の都市・地域再生等利用区域に指定しました。現在、市が整備した川に張り出したテラスの上で「朝市」や周辺の飲食店と連携した「星空バル」などのイベントが開催され、地域振興に寄与しています。

要望

本清議員 江戸川

堤防の浸水に対する安全性が不足する区間では、水位が上がった際に、水が通りやすい層が、水みちとなつて水と共に土砂が流れ出る「パイピング現象」を起こす可能性があると感じている。こうした区間の対策が望まれる。